

令和4年度予算編成に当たっての施政方針

令和4年度、本市は市制施行60周年を迎えます。市制施行100周年を見据えて策定され、本年度スタートした小平市第四次長期総合計画の2年度目、私の任期といたしましても2年度目の年となります。

本市の人口は、現在も全体としては微増を続けている状況にありますが、年々、高齢化が進行しており、そう遠くない将来には人口減少に転じることが推計されております。将来にわたって持続可能で魅力あるまちづくりを目指し、市民の皆様への積極的な情報発信に努めながら、基本構想において目指す将来像としている「つながり、共に創るまち こだいら」の実現に向けて、着実に歩みを進める年としてまいりたいと考えております。

令和3年を振り返りますと、引き続き、市民生活は、新型コロナウイルス感染症により大きな影響を受け、特に夏場の第5波においては医療提供体制のひっ迫が大きな課題となりました。秋以降、感染者数は大きく減少してきていたものの、年明けには第5波を上回る急速な増加に転じ、1月21日には、東京都を含めた全国各地で、まん延防止等重点措置が適用され、その後も感染拡大が続く事態となりました。

こうした中で、本年度は、12月までに12回にわたる補正予算の編成を行い、市議会のご協力をいただきながら、ワクチン接種をはじめとするさまざまなコロナ禍への対応について、可能な限りの迅速な取組に努めてまいりました。

一方で、1年間延期の上、無観客で開催された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では、体操女子の村上茉愛選手の銅メダル獲得など、小平市にゆかりのある選手が活躍する明るいニュースもありました。

さて、国におきましては、令和4年度予算を、「令和3年度補正予算と一体として、新型コロナ対策に万全を期しつつ、「成長と分配の好循環」による「新しい資本主義」の実現を図るための予算」としております。一般会計総額は107兆5千964億円となり、10年連続で過去最大を更新するとともに、4年連続で100兆円を超える当初予算案となっております。また、これに先立ち編成された令和3年度第1号補正予算は、「新型コロナウイルス感染症の拡大防止」、「ウ

「新型コロナウイルス」下での社会経済活動の再開と次なる危機への備え」、「未来社会を切り拓く「新しい資本主義」の起動」、「防災・減災、国土強靱化の推進など安全・安心の確保」を掲げ、追加歳出は3兆1千5百27億円の規模となっております。

東京都におきましては、令和4年度予算を、「都政に課された使命を確実に果たし、次なるステージへと力強く歩みを進めることで、希望ある未来を切り拓いていく予算」と位置付け、「感染症の脅威」など大きな危機を克服するとともに、誰一人取り残すことのない持続可能な都市へと進化する「サステナブル・リカバリー」を実現するため、大胆な発想で果敢に取組を進めていくこと、社会変革に適応した制度や仕組みへの抜本的な見直しを進めるとともに、事業の見直しを一層強化し、施策の新陳代謝を促すことにより、将来にわたる財政の対応力を堅持すること、東京2020大会に向けて磨き上げてきた数々の取組を、都市のレガシーへと発展させ、都民の豊かな生活につなげていくこと、との編成方針を掲げ、一般会計の総額で、前年度を3,760億円上回り、過去最大となる7兆8千10億円の予算を編成しております。

小平市におきましては、2年以上にわたるコロナ禍の影響が、くらしや地域の産業、市民活動、教育などにも影を落としております。変異株の感染拡大など、収束に向けてはいまだ先行きが不透明な中で、感染拡大を抑制しつつ「社会活動を止めない」という難しい課題が突き付けられており、今後とも、国、東京都、市が連携し、役割を分担しながら、コロナ禍への対応を行っていくことが重要であると考えております。

また、昨年12月に、住宅関連企業が実施した関東エリアの「本当に住みやすい街大賞」の第7位に花小金井が選ばれましたが、市制施行60周年の節目をひとつの契機として、これまで積み上げられてきた成果を踏まえながら、小平市第四次長期総合計画に基づき、より安全・安心で、地域のつながりがはぐくまれる、魅力的なまちを目指して、市街地整備や公共施設の再編などのプロジェクトを着実に推進してまいります。

令和4年度の事業の検討に当たりましては、新型コロナウイルス感染症の影響や、国・東京都等の施策の動向を捉え、また、「市民とつくる87の政策」の実現に資する事業について取り組むこと、持続可能な行財政運営を確保するための取組を着実に推進すること、デジタル技術の活用により事業内容・実施体制の見直し、創意工夫を図ること、小平市第四次長期総合計画に示され

ている基本目標横断プロジェクトを進める事業展開を図ること、市制施行60周年を記念する取組を検討することなどを指示いたしました。

私が、昨年の市長選において託された「市民とつくる87の政策」において、柱のひとつとしている「男女共同参画」につきましては、男性も女性も、子育てをする誰もが力を発揮できる環境づくりにつながる取組として、引き続き、保育・子育て環境の整備を積極的に推進いたします。

「防災・減災」につきましては、第四次長期総合計画の基本目標横断プロジェクトとしても掲げており、災害に強い都市基盤整備、まちの防災機能の強化に力を入れてまいります。また、「ICTの推進」につきましては、自治体DX推進への着実な対応と、市役所の各種業務のICT化などを推進してまいります。

令和4年度の当初予算案でございますが、新型コロナウイルス感染症の先行きがいまだ見通せない中、必要な施策・事業に限られた財源を効率的に配分し、市が目指す将来像「つながり、共に創るまち こだいら」の実現に向けて推進していく予算として編成しております。

はじめに、コロナ禍への対応といたしましては、3回目のワクチン接種体制の着実な確保に努めるとともに、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金等を活用し、自宅療養者等の支援や生活困窮者の自立支援、在宅の高齢者・障がい者の介護者が感染した場合の受入体制の確保を図ってまいります。また、引き続き、保育所、介護・障がい事業所の感染拡大防止対策に対する支援を図るとともに、感染症対策のための店舗改修の支援などを行ってまいります。新しい生活様式への対応としては、GIGAスクール構想の実現に向けた環境整備やデジタル化への対応を推進してまいります。

続きまして、小平市第四次長期総合計画の体系にそって、当初予算の主な取組につきましてご説明申し上げます。

はじめに「ひとづくり 人が育ち、学び、新たな価値を創造するまち」の分野でございます。

引き続き、子育て支援の積極的な推進を図ってまいります。保育園の緊急待機児童対策として、令和4年度に新たに私立認可保育園3園を開設して定員225人の確保を図り、さらに、令和5年度の私立認可保育園1園の開設、令和6年度の私立幼稚園2園の認定こども園への移行に向けて園舎整備費の補助を行います。また、民設民営の学童クラブに対する補助制度により、令和4

年度開設する2つのクラブに運営費の補助を実施し、さらに令和5年度の2つのクラブの開設に向けて支援を行います。

このほか、出張子ども広場を1か所拡充するとともに、1歳を迎えるお子さまがいる家庭を対象に子育てを応援するファーストバースデーサポート事業や、要支援家庭等に食材配付などの支援を行う事業を新たに開始いたします。

小・中学校では、より安全で良好な教育環境の整備を図り、また児童・生徒の増加等に対応するため、増築や大規模改造等の施設整備を行うとともに、学校体育館への冷暖房設備の設置を着実に進めてまいります。PFI方式により更新を行っている新しい学校給食センターは、令和5年2月の給食提供開始を予定しております。

GIGAスクール構想の着実な推進として、児童・生徒の増加に応じた必要な機器や設備を整備するとともに、経済的な困難を抱える家庭等を対象にオンライン通信費の支援を開始いたします。また、東京オリンピック・パラリンピック子ども夢・未来基金として積み立ててきた財源を教育環境の充実のため、令和4年度以降継続的に活用していくものとし、授業の質の向上を図るための指導者用デジタル教科書の導入や、トップアスリート等を学校に招く取組などを実施いたします。

健康づくりの分野では、引き続き、健康施策プロジェクトとして、市民みずからが健康づくりを楽しんで継続できるよう、こだいら健康ポイント事業を中心に若い世代への周知・啓発の取組を推進するとともに、HPVワクチンの積極的勧奨の再開に着実に対応してまいります。

文化・芸術の分野においては、国指定史跡鈴木遺跡の保存活用に向けた取組を推進するとともに、平櫛田中彫刻美術館では田中の生誕150年を記念する特別展を開催し、また所蔵作品の修繕にクラウドファンディングを活用してまいります。

続きまして、「くらしづくり 多様性を認めあい、つながり、共生するまち」の分野でございます。

女性相談室や、障がい者相談支援・地域活動支援センターの相談体制の充実を図るとともに、新たに性的少数者の方などの電話相談を開始いたします。また、たいよう福祉センターに児童発達支援センターを開設するほか、グループホームの増設により、障がい者の自立した地域生活と社会参加を推進いたします。

高齢者が地域で安心して暮らし続けられる環境の整備として、身近な地域で住民が主体的にフレイル予防に取り組めるよう、介護予防・フレイル予防推進員を拡充配置するとともに、要介護高齢者の在宅生活を支える定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスの開設、及び令和5年度の認知症グループホームの開設に向けた補助を行います。

続きまして、「まちづくり 自然と調和した、美しく快適で、魅力あるまち」の分野でございます。

まちの緑の保全と創出を図る取組として、鷹の台公園、鎌倉公園、武蔵公園に加え、上水南町二丁目の寄附物件を活用した公園の整備に向けて、それぞれ取組を推進してまいります。

また、市として、2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」の実現を目指すことを宣言し、引き続き、太陽光発電や燃料電池等の設備設置費に対する補助や公共施設の照明のLED化等の取組を推進するとともに、市民協働により市民版環境配慮指針のリニューアルを図り、地域の脱炭素化に向けた啓発を実施してまいります。

このほか、本定例会において提案いたしております小平市まちの環境美化条例に基づく取組として、駅前等の重点地区におけるパトロールを実施し、まちの環境美化を推進する取組を強化いたします。

防災・減災のまちづくりとして、重要な社会インフラである公共下水道につきましては、地震対策や老朽化対策、雨水整備を計画的に推進いたします。また、沿道建築物の耐震化の促進に向けた補助を実施するとともに、木造住宅の耐震化を促進する取組の充実を図ります。

小川駅西口、及び小平駅北口地区につきましては、駅前の利便性・安全性の向上や、にぎわいの創出など、将来的な人口減少時代の到来を見据え、まちの魅力の向上を図る取組として、再開発組合等に対する補助等により、事業の着実な実施に向けた支援を行ってまいります。

さらに、安全で快適な道路・交通環境の確保に向けて、小平都市計画道路3・4・19号線、及び3・4・10号線の整備、第三次みちづくり・まちづくりパートナー事業を引き続き推進するとともに、鷹の台駅前広場の整備工事を実施するほか、小学校通学路の交通安全対策の充実を図ります。

また、コロナ禍においてコミュニティバス・コミュニティタクシーの利用者数が減少している中、コミュニティタクシー等のグッズを作製して回数券とのセット販売などを行い、利用促進にもつなげてまいります。

産業振興の分野におきましては、小平商工会への補助により店舗改修工事等を支援するほか、小平産農産物を使った市内飲食店等をめぐるイベントを開催いたします。また、農地の保全の取組や農業経営基盤の強化に対する各種支援を継続するとともに、体験農園の設備改修等に対する新たな補助を実施し、市民の皆様が農業に親しめる環境の維持・整備を進めてまいります。

おわりに、「ひとづくり」「くらしづくり」「まちづくり」の3つの基本目標を、着実に推進するための「自治体経営方針」に関連して取り組む事業といたしましては、

将来的な人口減少や、公共施設の老朽化等の課題への対応として、引き続き公共施設マネジメントを推進し、公共施設の機能の再配置や複合化の各取組を計画的に推進いたします。中央公民館・健康福祉事務センター・福祉会館の複合化による更新につきましては基本設計・実施設計を進め、小平第十一小学校につきましては複合化に向けた設計条件等の整理等を行い、小平第十三小学校につきましては基本計画の策定に向けて検討を進めてまいります。

デジタル化への対応の取組といたしましては、国による行政手続きのオンライン化やシステムの標準化に対応する取組を着実に推進するとともに、マイナンバーカードの交付については、引き続き専用窓口や出張申請サポート、また個別の案内通知の実施などにより推進してまいります。

さらに、市役所のICT化として、AI-OCR導入業務の拡充や、私立保育園等からの請求業務のオンライン化、介護認定審査会資料のペーパーレス化の実施により業務の効率化を図るほか、職員を対象としたテレワークについては、端末やコミュニケーションツールなどの環境を充実整備し、実証実験を拡充して推進してまいります。

また、防災・減災の観点も踏まえ、災害対策本部が設置される庁舎機能の維持・強化を図ってまいります。

このほか、市制施行60周年として、市民の皆様にしへの関心や愛着を深めていただく機会となるようなイベントや、記念となる取組を企画しております。

以上、令和4年度当初予算に盛り込みました主な取組について、述べさせていただきました。

なお、小平市第四次長期総合計画の令和4年度主要事業としてお示しいたします84項目のうち、39項目に「市民とつくる87の政策」に関連する内容が含まれております。